

## 第5章 授業実践

### 第5節 授業の反省

初めて会った子どもとの授業は、緊張であり、また、新鮮なものであった。以下に授業をしてきた感想、また、話し合いの論点の中から、情報教育の今後のあり方について論じる。

#### 5.5.1 授業全般について

授業の良し悪しは、普段の学級経営にあると言えるが、まさにこのことがプラスの方向に出た。話を集中して聞く力、積極的に話す力、作業に真剣に向かう意欲など、すばらしいものがあった。

筆者は、この学級を担当する附田先生のすばらしい学級経営のもと、授業を行うことができた。冒頭の言葉を身にしみて感じたわけである。

発言も活発で、授業の内容のところで述べたように、授業の始めの「個人情報とは何か」で大いに盛り上がり、予定時間を大きく越えてしまった経緯となる。

#### 5.5.2 授業の流れについて

##### 5.5.2.1 授業の容量

今回は、情報モラルのうち個人情報の保護について扱った。授業2時間を使った。1時間目は、児童にとって身近である二セ電話での個人情報の聞きだしについて扱い、2時間目は、筆者の研究の本題でもあるインターネットを使っての個人情報の保護について、実際に二セホームページに個人情報を記入させた。

当初は、何とか1時間の授業でまとめようとしたが、子どもたちのインターネットでの個人情報の入力についての経験のなさを考えると、今回の実践のように2時間の授業で扱うことは妥当だったと考える。

また、授業後に行われた話し合いの場面で、情報モラル一般について、広く指導した方がいいという意見が出た。情報モラルは、情報の価値や、情報の発信、利用、コミュニケーション、ショッピングなど子どもたちに指導すべき内容が多岐に渡る。今回は、情報の発信の中の個人情報について扱った。子どもたちにいろんなことを教えたいのは山々であるが、焦点がぼやけてしまうことを考えると、今回のようにとても狭い領域ではあるが、絞って授業を行ったことは妥当だったと考える。

さらに、述べたように情報モラルについては、まだまだ指導しなければならない分野がたくさんある。今回の個人情報の保護だけではなく、大切なものは計画的に指導していく必要があるのは自明である。

##### 5.5.2.2 授業の流れ

事前調査の結果から、子どもがインターネットを通してアンケートや会員登録、プレゼントなどに自分の名前を書き込んだことがあるという経験を持つ子は少なかった。一方、

筆者が今回の授業で訴えたかったのは、インターネットを通しての個人情報の書き込みへの危険性である。子どもたちが目標をクリアしていくためには、それなりの小さなステップを要する。

#### ・ニセ電話

述べたように今回の授業は2時間を1セットとし、その1時間目に、個人情報とは何か、そしてなぜ大切なのかを説いた。さらに、子供たちにとっても身近な問題として認識されているニセ電話のスキットを通して、実践的に学習を進めた。ニセ電話については、本校でも同じような手口が校下の家庭から報告があり、また、授業を行った上磯小学校でも同様の電話についての報告が上げられ、子どもたちの警戒意識も高くなっていた。その結果として、子どもたちは授業に食いついてきて、その対応に対する意見も活発に出された。

授業のねらいのところでも述べたが、警察から母親の交通事故での重症を知らせる電話では、子どもの多くが父親の携帯番号や住所などを話してしまうと思っていた。また、そうあるべきではないかと思った。しかしながら、ほとんどの児童は、警察からだと言えども、簡単に情報は流さないと答えた。万が一このような場面に遭遇したら、このようになるかどうかは別として、警戒心があまりにも強いということで、人間不信というか、悲しい気持ちになったが、これも現実に対処していく知恵と言っていいのだろうかと感じた。その中でも、しっかりとその事実を確認しようとするという意見が出され、子どもたちのしっかりさを感じることができた。授業の中で、筆者は、個人情報の保護について、全ての電話に対して否定するものではなく、自分のあらゆる経験をもとに的確に判断してほしいということを強く言った。

情報教育は「情報活用能力」の育成にある。情報活用能力の中には、得られた情報を自ら判断することも能力である。困った場合、どうすればいいか自分で判断を迫られた場合、自分の考えで決断するという能力である。母親の交通事故を知らせる電話に遭遇した場合、冷静に確かめるのも、信じて情報を伝えるのも、子どもたちが自分で正しいと思って判断したことであれば、それが、間違いの方向であり、重大な結末を招いたとしても、それが攻められるべきものではないであろう。そして、その子にとっては、また、一つの経験が増え、次に何か判断を迫られた場合に、前の経験が生きてくるということにもつながってくるのであるから。

#### ・ニセホームページ

個人情報を簡単に漏らしてはいけないということがわかった上で、インターネットに自分の名前を書き込ませるといふ、子どもたちにとっては、ちょっと「こわい」経験をさせることになる。筆者は、この「こわさ」の体験が今回の授業のキーポイントだとも思っている。今は、WEBから買い物、会員登録、懸賞応募など、様々な形で、個人情報やそれに関わるような情報を送ることができる時代である。同意書を読まない、また、何も警戒心なく送信ボタンを押してしまうなど、慣れっこになっていると、誰でも経験していることであろう。その一方で、見たことも聞いたこともないような会社から、ダイレクトメ

ールが届く。また、物売りの訪問や、勧誘の電話がかかってきたりする。また、公的機関を語る「債権取立て」などの脅しとも思われるハガキが舞い込んできたりする。これらが、インターネットなどによる情報の漏洩によるものか定かではないが、その可能性はいくらかでもあるということは間違いない。

この個人情報を入力させるに当たっては、あくまでも筆者が作ったホームページであり、データは筆者以外に流れることはないこと、授業が終わったら全てのデータを削除することの2点を伝え、子どもたちに、自分の住所、郵便番号、名前、学年、性別を記入させた。子どもたちは、楽しそうにアンケートに答え、ニセのプレゼントを選ぶのに悩みながら入力をしていった。住所や名前を入れていくと、一番下に「送信」と「リセット」のボタンがある。入力情報確かめて、子どもたちは最後にこの送信ボタンを押すことになる。机間巡視をして、最後まで、入力し終わって、一呼吸おいている児童がいた。筆者は、「終わったら、この送信ボタン押してね。」と声をかけたら、「先生、何かちょっとこわいような。」ってつぶやいた。この言葉は今でも筆者の耳に残っている。また、後に掲載している子どもたちの感想を見ても、「楽しい、勉強になった」というものが多かったが、「こわかった。」というのも何名かからあった。この授業で子どもたちをこわがらせる意図はなかった。でもこの「こわい」という感覚を子どもたちが、この授業を契機として持ち続けてくれたならば、この授業のねらいは十分に達成されたと思う。

さらに、ネット上の個人情報の流出が概念だけではなく、実際どのようにして行われるのか、筆者なりにデータの流れを考えながら、子どもたちの前で、悪徳業者に扮して、その全てを画面上で見せた。この実践は、今まで聞いたことがないものであり、全国的にも初めての実践ではないかと思う。子どもたちがニセホームページから入力した個人情報は、電子メールとして届く。子どもたちにもメール画面で、データが刻々と集まってくる状況を見せた。子どもたち全員のデータが届いたのを確認して、それを一覧表に読み込んだ。集計用ソフトを使うと、メールのデータが一瞬にして表(CSVファイル)の形式になる。この授業では子どもたちに見せなかったが、表形式になってしまうと、フィルタリング(必要なデータを条件によって絞っていくこと)により、性別や、学年、また、特定の住所などを絞っていくことが可能となる。今回のアンケート項目にはなかったが、趣味・嗜好などの情報があれば、十分「売って金になる情報」になっていく。

子どもたちに、「自分たちの学級のみみんなのことだから、ここで一覧表をちょっと出してみよ。」と断って、一覧表を提示した。本当は、内部とは言え、こうやって子ども達の住所一覧を出すのは、批判が出てきそうなところでもあったが。子どもたちは目を丸くして見ていた。名前をひらがなで入れた児童のはそのまま出てきて、何とも今の授業で入力したという感じが出ていた。

それに続いて、子どもたちの住所、名前を打ち出したタックシールを貼った悪徳業者からの手紙(本当の中身は、個人情報について気をつけることのまとめ)を子どもたちにその場で届けた。タックシールの印刷は、慣れてしまえば、いとも簡単にできる。Microsoft

のワードの宛名ラベル印刷機能を使い、これも様子をスクリーンに映し出しながら、実演してみせた。名前の最後に「様」をつけ、名前のフォントをちょっと大きめにしてできあがり。あっという間に、画面上に子どもたちの住所や名前が入ったタックシールが完成した。その場でプリンターに打ち出し、アシスタントの先生方に手伝ってもらって、シールをはり、子どもたちに手渡した。自分で入力した住所が送ってから何分も経たないうちに、手紙になって発送されたことに、子どもたちの表情は、うれしそうでもあり、不思議そうでもあった。また、ここでも「こわい。」という表情も伺うことができた。

### 5.5.3 全体を通して

インターネットの発達は、今後今よりももっともっと身近な存在になることは間違いのないであろう。買い物も金融関係も自宅のパソコンから全て操作可能で、決済もオンラインで行われるのが一般化する日もそう遠くはない。便利になる一方で、悪事を働こうとする者が出てくるのも世の必然であろう。コンピュータのセキュリティは高くなる一方で、騙す方のテクノロジーもそれに追従する形で進む。このイタチゴッコが留まることはないであろう。最終的にネット上の損失は個人が被ることになることは多いであろう。そのような21世紀を生きる子どもたちに、今回の「送信ボタン」を押すときに「こわさ」がいつまでも残ってくれ、「このサイトは、安心できるものであるから送信する」という確認のワンステップが身につけてくれればと願うのである。

## 授業1時間目のわかったこと・感想

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

電話番号などを聞いてお金になることが今日わかった。すこくたのしい授業だった。もし電話とできる時に、気をつける。

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

1人の人が友達などの電話番号(個人情報)を教えると、たくさんの人たちがめいめいかくるので、たくさんの人たちが安心してできるようになるべきは、考えたいように安心してかけるといいと思いました。

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

下はたでんわがわがわがしてきたときにどうすればいいかがわかってたい人よかったです。家にきたときには、キツイことをいいましたが、これで助かりました。タメになった感じが良かったです。

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

わかったこと、  
あつめられた個人情報(住所など)で「どく」をしている人がいることがわかった。それに、いろいろな手口であつめている事や、本当に近いことでもだまして、だまされていることがわかった。

### 感想

め、たいできない勉強だった。それに、全国?ですごい人(佐々木)先生に、色々なことを教えてもらった。5時間目の勉強が楽しみ!



今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「ききたす人は、不自然じゃない。  
○個人情報はいたくさんあった。  
○おしえるときは、慎重に。」

先生の授業は、わかりやすかった。  
ぼくは、たぶん不慣れた電話にだまされたいと思った。



今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「前から個人情報は、教えるは、ならないとわかっていたけど、この学習をどうして、個人情報を教えないことは、大切だと改めて思いました。」

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「知らない人から電話がかかってくるとうるさいおもうがあるかがわかった!! それにあつく自分のためになると思う。それにすし安心して家にいれる!!」

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「個人情報~~は~~も、教えるとはとてもきけんだとということがわかった。だから、個人情報~~は~~は大切だということがわかった。でも、やはり、自人のお母さんとかのことで電話がかかるとしたら、不安で個人情報ももらしてしまうかもしれない。」



今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「個人情報がとても大事だということがわかった。自分の家にもし電話かきかもしかきかき言ってしまおうかもしれないと思っ」

今日の授業でわかったこと・感想をまとめよう。

「お母のことでもやさしい声で言わなくても、またかくにんの電話をお母にすることなど、大切だと思いました。電話などの場合は絶対にしやばてはいけないということがわかりました。」

## 授業 2 時間目のわかったこと・感想

2015.11.11

インターネットでプレゼントのオーダーをするのは、初めてだったので注意のことは、しっかりもって必要なものがまわったりしないようにしようと思った。

・感想

アンケートをやる時本当に迷惑するわけじゃないけど本気になってやってた。アンケートのやり方を先生がすごくお面白かったです。わからないことがあっても、こういういいことがわかってよかったです。

・感想

インターネットを利用し、かんたんに、色々な人の個人情報かわかるということかわかり、すごくこわくなりました。あと、すぐに手紙などを送れるということもわかった。



・感想

個人情報を入力するとへんに使われる場合があるので、あぶないと思いました。

・感想

すぐに住所はせたいにせたいに書きこんではいけないというのわかりました。コンピューターでおかしなサイトが出たら、すぐに親に相談するように。ということなので、コンピュータはこわいなと思いました。

・感想

ほしい物か<sup>おやしいと</sup>あって、<sup>思っ</sup>て、どこで買ったかなどをのこりとした住所がわいてあたりしたら、おくらうかも<sup>まはして</sup>（れないから、こわい）。

あ  
・感想

個人情報とは、あんなにかん単に印さつや、  
保そんか<sup>ん</sup>が<sup>ん</sup>でい<sup>る</sup>なんてすこ<sup>い</sup>けど<sup>い</sup>あるい<sup>み</sup>  
こわいと思<sup>う</sup>

・感想

小学生だけというの<sup>が</sup>あ<sup>し</sup>か<sup>た</sup>けど<sup>い</sup>せん<sup>せい</sup>の<sup>作</sup>に<sup>ホ</sup>ー<sup>ム</sup>ペ<sup>ー</sup>ジ<sup>だ</sup>った<sup>の</sup>で<sup>よ</sup>かった。  
けど<sup>い</sup>自分<sup>で</sup>も<sup>1</sup>回<sup>だ</sup>け<sup>に</sup>サ<sup>イ</sup>ト<sup>に</sup>X<sup>ア</sup>ド<sup>を</sup>お<sup>く</sup>た<sup>こ</sup>と<sup>が</sup>あ<sup>っ</sup>た<sup>の</sup>で<sup>こ</sup>れ<sup>か</sup>ら<sup>気</sup>を<sup>つ</sup>け<sup>よ</sup>う<sup>と</sup>思<sup>っ</sup>た。

・感想

個人情報<sup>は</sup>て<sup>て</sup>も<sup>か</sup>ん<sup>た</sup>ん<sup>に</sup>  
使<sup>わ</sup>れ<sup>や</sup>す<sup>い</sup>か<sup>ら</sup>気<sup>を</sup>つ<sup>け</sup>る<sup>も</sup>  
た<sup>ほ</sup>う<sup>が</sup>い<sup>い</sup>な<sup>い</sup>こ<sup>と</sup>が<sup>あ</sup>っ<sup>た</sup>、  
<sup>る</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>し</sup>

・感想

個人情報<sup>が</sup>か<sup>ん</sup>た<sup>ん</sup>に<sup>い</sup>ろ<sup>い</sup>ろ<sup>た</sup>ん<sup>に</sup>  
に<sup>で</sup>ま<sup>あ</sup>る<sup>か</sup>も<sup>し</sup>れ<sup>な</sup>い<sup>の</sup>で<sup>こ</sup>わ<sup>い</sup>  
思<sup>っ</sup>た。

・感想

案<sup>ず</sup>い<sup>に</sup>に<sup>タ</sup>ー<sup>ネ</sup>ッ<sup>ト</sup>で<sup>お</sup>う<sup>ま</sup>て<sup>み</sup>て<sup>や</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>ア</sup>ニ<sup>ケ</sup>ー<sup>ト</sup>で<sup>個</sup>人<sup>情</sup>報<sup>が</sup>す<sup>い</sup>  
ぐ<sup>に</sup>入<sup>る</sup>の<sup>で</sup>恐<sup>い</sup>と思<sup>っ</sup>た

・感想

5時間目も個人<sup>情</sup>報<sup>の</sup>色<sup>々</sup>な<sup>こ</sup>と<sup>が</sup>子<sup>ど</sup>も<sup>も</sup>  
だ<sup>け</sup>で<sup>や</sup>ら<sup>い</sup>け<sup>な</sup>い<sup>こ</sup>と<sup>が</sup>わ<sup>か</sup>っ<sup>た</sup>。  
5時間目の<sup>学</sup>習<sup>も</sup>わ<sup>か</sup>り<sup>が</sup>す<sup>か</sup>た。

・感想

4時間目と5時間目で<sup>学</sup>習<sup>し</sup>た<sup>事</sup>が<sup>自</sup>分<sup>に</sup>た<sup>め</sup>に<sup>な</sup>れ<sup>ば</sup>  
い<sup>い</sup>と思<sup>う</sup>。もし<sup>こ</sup>の<sup>よ</sup>う<sup>な</sup>事<sup>が</sup>自<sup>分</sup>に<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>ら、<sup>こ</sup>の<sup>学</sup>習<sup>を</sup>  
思<sup>い</sup>出<sup>し</sup>な<sup>か</sup>ら<sup>や</sup>り<sup>た</sup>い<sup>と</sup>思<sup>う</sup>。それ<sup>に</sup>こ<sup>う</sup>い<sup>う</sup>せ<sup>つ</sup>に<sup>は</sup>、  
す<sup>こ</sup>い<sup>く</sup>気<sup>を</sup>つ<sup>け</sup>た<sup>い</sup>と思<sup>っ</sup>た。

・感想

ぼくは、こ<sup>こ</sup>ろ<sup>で</sup>家<sup>に</sup>あ<sup>る</sup>コ<sup>ン</sup>ピ<sup>ユ</sup>ー<sup>タ</sup>で、そ<sup>う</sup>い<sup>う</sup>  
こ<sup>と</sup>は<sup>や</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>け</sup>ど、ぼくは<sup>勇</sup>気<sup>が</sup>な<sup>い</sup>の<sup>で</sup>  
で<sup>ま</sup>せ<sup>ん</sup>。だ<sup>け</sup>ど<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>人<sup>も</sup>な<sup>り</sup>ま<sup>し</sup>た。  
佐<sup>々</sup>木<sup>先</sup>生<sup>あ</sup>り<sup>が</sup>と<sup>う</sup>ご<sup>ざ</sup>い<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。